

## I 本校における「総合的な探究の時間」の目標

身近な事柄や地域、社会における課題を発見し、その解決に向けて主体的に関わり、多角的な視点から課題を捉えるとともに、好奇心をもって物事を探究する力を育む。

## II 「総合的な探究の時間」で探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

1 知識及び技能	2 思考力、判断力、表現力等	3 学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの探究活動が地域貢献につながり、多くの人たちの生活に役立つ可能性があることを理解する。</li> <li>旭川の気候や季節をまたぐ雪の保存方法について知り、探究活動に活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雪冷房装置から得た種々のデータを基に、根拠をもって資料を作成し次の活動を立案できる。</li> <li>探究活動をとおして地域のニーズを集め、それらを集約、整理し論理的にまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と協力し、主体的に探究活動に取り組む。</li> <li>仲間の考えを尊重し、互いの良さを生かして探究活動に取り組む。</li> </ul>

## III 「総合的な探究の時間」の単元計画の概要

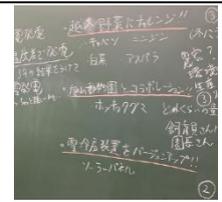
目標を実現するにふさわしい探究課題	イ	保存した雪を用いた地域貢献活動		
単元目標	雪の保存活動をとおして、旭川の暑い夏を快適に過ごすための方法を模索するとともに、雪を保存することが地域貢献につながる可能性があることを探究し、まとめる。			
月	主な内容		探究の過程	時数
4	・雪冷房装置の改良		情報の収集	2
	・雪冷房装置の実験、検証		整理・分析	3
5, 6	・保存した雪を活用した地域貢献活動について考える		情報の収集	2
	・雪冷房装置を使った、地域（旭山動物園）と協力した実験		整理・分析	4
9	・雪冷房装置の分析、改良		整理・分析	4
10	・これまでの取り組みを振り返り、まとめる。		まとめ・表現	4
12	・今年度の取り組みをまとめた資料を作成する。		まとめ・表現	6
2	・夏まで保存する雪山を作成		整理・分析	8

- (注) 1 「目標を実現するにふさわしい探究課題」とは、目標の実現に向けて学校として設定し、生徒が探究に取り組むためのものであり、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究の見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい、教育的に価値のある諸課題のこと。
- 2 「目標を実現するにふさわしい探究課題」の欄には、探究課題を簡潔に記載するとともに、次のア～オに該当するものの記号を入力すること。
- ア 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な学習
- イ 地域や学校の特色に応じた課題
- ウ 生徒の興味・関心に基づく課題
- エ 職業や自己の進路に関する課題
- オ その他
- 3 「探究の過程」の欄には、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」のいずれかを入力すること。

## I 学習の様子

【課題の設定】2025年 1月～3月

前年度から取り組んでいる「雪の保存」について、地域貢献という視点から自分たちにできることについて意見を出し合い、大きく3つの目標を設定しグループ分けを行った。



【情報の収集】4月、5月

雪冷房装置を改良するためにICTを活用し必要な情報収集を行った。また、地域貢献の視点で旭山動物園にどのような形で貢献ができるのかを話し合い、設定した課題についての理解を深めた。



【整理・分析】6月、7月

雪冷房装置を使った実験を行った。校内での予備実験では、使用した教室、冷房装置、時間、温度等をデータにまとめ、分析を行った。また、旭山動物園で屋外での実験を旭山動物園職員と行い、テント内外の温度や湿度の変化についてデータでまとめ、分析や考察、次回に向けての意見を出し合った。



【まとめ・表現】10月～12月

学校祭において、全校生徒、教職員、来場者に対し、今年度の取り組みを発表した。また、活動内容を紹介するチラシを作成し配布した。



## II 探究活動の成果

- ・探究活動を通して、地域課題に興味・関心をもつことで自分事として捉えることができた。また、その過程で得た気付きや考えを相手に伝わるよう自分の言葉で説明したり、多様な視点からの質問に対して自分の考えを整理しながら答えたりする力が高まった。
- ・他校の発表や他者の意見を見たり、聞いたりしたことで、自分たちにはなかった新しい気付きを得ることができた。多角的な視点から自分たちの活動をよりよいものにしていく工夫やアイデアを出し合う力が育かれた。
- ・定期的に普通科全学年で活動する時間を設けたことで、他学年と協力して取り組むことができ、自分たちが取り組んできたことや、やり残したことを伝える力が育かれた。

## III 今後に向けて

- ・これまでの継続した活動以外に新たな視点での取り組みを考える必要がある。
- ・「ゼロカーボン」に向けた取り組みを具体的に進める。
- ・外部協力者とのつながりを強化する。